稲城野草散策の会

野草スケッチ　ニガナ（キク科）

1997/05/26　　稲城市坂浜　　絵と文　Ｔａ

私のスケッチは見たままをそのまま描く、ということはどこかで触れた。
線画が命、ということについてもどこかで言及している。
見た通りをそのまま線として描く、ということである。
「それが難しいのよね～」

会報第３０号　2007年6月17日発行　発行責任者　尼子　房夫

観察仲間を相手に、ミニスケッチ講座を開いたとき、生徒の一人がそうつぶやいた。
見たままをそのまま描くには、どうすればよいのであろうか。
スケッチ講座ではそのあたりをキチンと説明できなくて、結局「難しい」という印象を皆に与えてしまったようだ。
いや、説明できなかったのではなく、自分でもわかっていなかった、ということである。

どうやったら実物と同じ形を紙に写し取ることができるのか、考えてみた。逆に、失敗したとき、なにがいけなかったのか、そのときのペンの動きも気になる。
自分の描き方を分析して、セオリーを作れば、もっと正確に描くこともできるし、人に教えることも容易になるだろう。
その前に、なぜ皆が「難しい」と思ってしまうのか、その辺の分析も必要なのではないだろうか。

小学生の頃、手塚治虫の漫画を真似して描いた。図工は嫌いでも、漫画は大好きな少年だった。
当時購読していた少年雑誌に「漫画の描き方」が載っていたように思う。
たとえば、顔を描くときには丸を描いて輪郭とし、目鼻をＴの字で位置決めし、それからだんだんと仕上げていく、というプロセスだった。
基本的なデッサンのやりかたでもある。
丸顔、四角い顔、細い顔、などのパターンを増やしていけば、どのような顔でも、表情でも作ることができるに違いない。
一般的に、絵を描く、デッサンするというと、こうしたスタイルを思い浮かべるのではないだろうか。

ところが、花を描くときには、このやりかたではうまくいかないような気がする。
なぜか。
形のパターンを持つには、花の形は千差万別だ。
私の絵を見て、「よく特徴をとらえていますね」「そっくりに描かれてますね」などという人は、無意識のうちに、絵は特徴をパターン化して描くものだと思っているに違いない。
パターンで描けるなら、それも一つの方法かもしれない。
しかし、すべての花、葉、実、茎に対応したパターンはとうてい持ちきれない、ということが第一の理由である。

第二の理由として、パターンを持つと言うことは、別の言い方をすれば先入観が入ることになるからだ。
先入観が入ると、あるがままの形が見えてこない。
たとえば、このニガナを描くとする。
ニガナの花びら（舌状花）は通常５枚ある。
５枚というパターンを持っていれば、花の位置さえ決めたら、正面か横向きか、という点だけをチェックすればほとんど実物を見なくても花の部分は描けるだろうし、そのほうが仕事が早い。
しかし、よく見ると、６枚の花びらを持っているものもある。
５枚と思い込んだら、６枚ある花でも５枚にしか見えない。というより、そこまで見ずに手抜きしてしまう。
人間の目は意外と怠け者なのだ。

「５枚か６枚かの違いくらいはちゃんと見てますよ」という人はいるであろう。
では、２０枚程度の花びらを持つ花があったとして、２１枚なのか１９枚なのか、というところまで見るであろうか。
そこまで見なければ、見ていることにはならないと思う。
補足すると、枚数を数えて枚数分を描くのではない。
１枚１枚を見た通りに描けば、全体として実際の数と一致する、そのように描くということなのだ。
あるがままの形を描くには、あるがままの形をまずキチンと見ることが大前提である。一切の先入観、思い込み、省略化の誘惑を排除しなければならない。

「なにもそこまでして『見たまま』にこだわることもないのではないか」とか
「大づかみに花の特徴を捉えて、それらしく描ければそれでいいではないか」
といった考え方もあるだろうし、そうした考え方を否定しているわけではない。
私流の描き方というものを、自分なりに分析しているのであって、それを押し付ける気持ちはさらさらないことを言っておきたいと思う。

では、一切の先入観をなくして、あるがままの形を見たとしよう。
それをどう描くかは、テクニックの領域になる。
テクニックの分析はほぼできたと思っているが、どうも長くなりそうだ。
続きは次回・・・ということでお許しいただきたい。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

〔観察記録〕５月１３日　浅間山公園

府中浅間山公園～多磨霊園～武蔵野公園～野川公園（野草園）というコースでした。ご参加の皆様、お疲れさまでした。お手伝い下さった方々、有難う御座いました。いつも、本当に助かっています。

広大な多磨霊園の中で時間を食い、昼食時間が大幅に遅れるなど、不手際がありましたこと、お許し下さい。

まあ、それはそれとして・・結構、見どころの多い、観察会だったと思いますがいかがでしょうか？

「ムサシノキスゲ」は、ちょうど見頃でしたね。

「オケラ」の葉の変身ぶりなど、いかがでしたか？

ご感想など、お聞かせ下さい。

「ムサシノキスゲ」・・山地の湿潤な土地に群生する「ゼンテイカ」（ニッコウキスゲ）が、低地の乾地に順応した型（タイプ）である、とされるもの。（めりべ）

曇りのち晴れの比較的過ごしやすい一日でした。バスを利用した方、東府中から歩いて来た方もあり、６７名の参加がありました。

お目当てのムサシノキスゲは満開で、多分この休みが最後でしょう。キンラン、ギンラン、ササバギンラン、それにホウチャクソウもまだ花が残っていました。オオアマナの花も見られました。

多磨霊園では、トチノキ、ベニバナトチノキ、ホオノキ、ヤマボウシ、カナメモチなど木の花、ナヨクサフジの花が見られ、コヒロハハナヤスリも久し振りに

見ました。
　武蔵野公園からの野川沿いの道では、カキネガラシ、ヤセウツボ、チリアヤメ、キショウブなどを見ながら歩き、最後に野川自然観察園を一巡して今回の観察会は終わりました。都合で、昼食が１時なってしまい、済みませんでした。
(FAM)

◆観察記録（番号順）
(01)コヒルガオ(花)、(02)ヤマウコギ(花)、(03)エゴノキ(花)、(04)オカトラノオ、(05)シラヤマギク、(06)サワフタギ、(07)ホオノキ、(08)ヌスビトハギ、(09)ヤブタバコ、(10)アキノキリンソウ、(11)ガマズミ(花)、(12)ホタルブクロ、(13)マユミ、(14)ノダケ、(15)アキノノゲシ、(16)オオブタクサ、(17)ママコノシリヌグイ、(18)オケラ、(19)オオバギボウシ、(20)ヒヨドリバナ、(21)ニガナ、(22)オケラ、(23)コウヤボウキ、(24)ノブドウ、(25)ヒメコウゾ、(26)センボンヤリ、(27)オケラ、(28)ヤマグワ、(29)ヤマボウシ、(30)オオアマナ(花)、(31)ムラサキケマン、(32)ハリエンジュ(花)、(33)カリン、(34)イヌシデ、(35)エノキ(実)、(36)クマノミズキ、(37)クマシデ、(38)ケヤキ、(39)ベニウツギ、(40)ムクノキ、(41)ノイバラ(花)、(42)ヨウシュヤマゴボウ、(43)ブタクサ、(43)オオブタクサ、(44)キツネアザミ(花)、(45)ムラサキシキブ、(46)イヌザクラ、(47)アメリカフウロ(花)、(48)ニワウルシ、(49)キキョウソウ、(50)ウラジロチチコグサ、(51)チチコグサ、(52)ハハコグサ、(53)トウダイグサ(花)、(54)ハゼノキ、(55)オニタビラコ(花)、(56)シロザ、(57)カナメモチ(花)、(58)ツボミオオバコ(花)、(59)サカキ、(60)コヒロハハナヤスリ、(61)オッタチカタバミ(花)、(62)ベニバナトチノキ(花)、(63)トチノキ(花)、(64)スミレ(花)、(65)コナスビ(花)、(66)ツルウメモドキ、(67)ナヨクサフジ(花)、(68)コウゾリナ(花)、(69)ボダイジュ(蕾)、(70)アカシデ、(71)カキネガラシ(花)、(72)ヤセウツボ、(73)マメグンバイナズナ、(74)チリアヤメ(花)、(75)ヒメシャラ、(76)ツルドクダミ、(77)ナワシロイチゴ(花)、(78)キショウブ(花)、(79)ヤブヘビイチゴ(花)（実）
(FAM)

〔観察記録〕５月２０日　黒川～別所

　一時曇った時間もありましたが、快晴の観察会でした。コースは黒川駅～汁守神社～いずみ浄苑～公園で昼食～飯守神社～別所バス停で、結構距離があったように思います。少し疲れたので、ここで帰りましたが、余力のある方たちは、引き続きあと１時間くらい観察されました。
黒川駅前の空き地は、いろいろな植物が見られてなかなか良い場所です。ここで

かなりの時間を取りました。

◆観察記録（番号順）
⑴チチコグサ、⑵ミヤコグサ㈫（＊注１）、⑶ニワゼキショウ㈫、⑷オオニワゼキショウ㈫、⑸ニガナ㈫、⑹ノアザミ㈫、⑺ハリヒメハギ（＊広沢さんからハリヒメハギではなかったという連絡がありました）、⑻メドハギ、⑼ゴウソ、⑽ヤクナガイヌムギ、⑾アメリカフウロ㈫、⑿ナヨクサフジ㈫、⒀ヒメハギ㈫、⒁ヒメヨツバムグラ、⒂トボシガラ、⒃トウバナ、⒄ミヤマナルコユリ㈫、⒅シオデ、⒆タマノカンアオイ、⒇ウラシマソウ、(21)オヤブジラミ㈫（実）、(22)ウグイスカグラ㈭、(23)ヤマホトトギス、(24)カラスビシャク、(25)ナワシロイチゴ㈫、(26)ウツギ㈫、(27)フタリシズカ㈫、(28)マユミ、(29)センニンソウ、(30)カニツリグサ、(31)クマヤナギ、(32)メヤブマオ、(33)シナノキ、(34)ガマズミ、(35)ハナイカダ、(36)ヤマコウバシ、(37)モミジイチゴ㈭、(38)ヘビイチゴ㈭、(39)ココメウツギ㈫、(40)ヤマツツジ㈫、(41)クマガイソウ、(42)タツナミソウ㈫、(43)セリバヒエンソウ㈫、(44)ヤブタビラコ㈫、(45)ニシキギ、(46)ツリバナ㈫、(47)ヒエガエリ、(48)クサヨシ、(49)トウバナ㈫、(50)ヒトリシズカ、(51)オカタツナミソウ、(52)コナスビ㈫、(53)シロバナマンテマ㈫、(54)コバンソウ㈭、(55)ヒメコバンソウ㈭、(56)コバノガマズミ、(57)ハリギリ、(58)カシワバハグマ、(59)コウヤボウキ、(60)ウワミズザクラ、(61)アラカシ、(62)シラヤマギク、(63)アオハダ、(64)サジガンクビソウ、(65)ヤブレガサ、(66)カントウカンアオイ、(67)ハコネウツギ、(68)クサギ、(69)ガマズミ㈫、(70)アカメガシワ、(71)ヤマハッカ、(72)ネコハギ、(73)アシタバ、(74)コヒルガオ㈫、(75)ベニシダ、(76)オオジシバリ㈫、(77)スイカズラ㈫、(78)エビヅル、(79)シバヤナギ、(80)ハンカチノキ㈫、(81)ナギイカダ、(82)タチシノブ、(83)メギ、(84)トキリマメ、(85)オオバウマノスズクサ、(86)ノブドウ、(87)クロモジ、(88)ツタウルシ、(89)ツタ、(90)コバノヒノキシダ、(91)ノハカタカラクサ㈫、(92)カマツカ㈭、(93)シロヤマブキ、(94)コクサギ、(95)ノイバラ
(FAM)

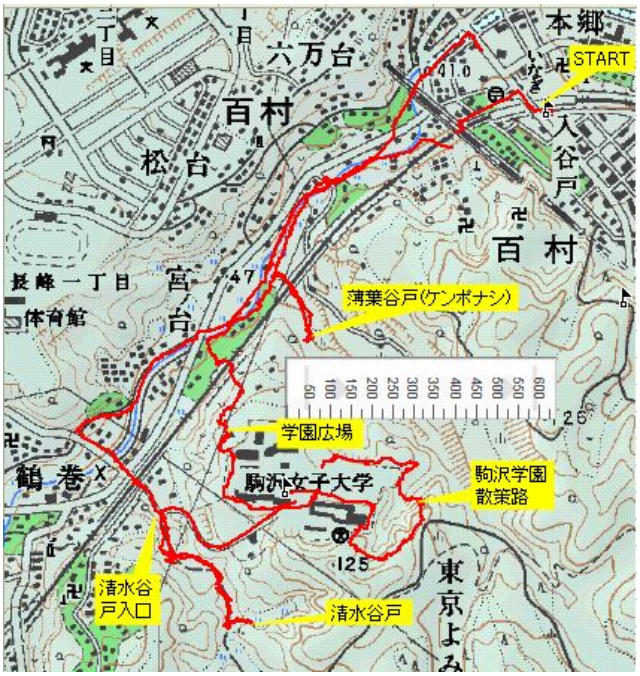
（＊注１）　ミヤコグサと説明があったものについて、セイヨウミヤコグサではないかという意見があり、広沢さんが再確認されたところ「ネビキミヤコグサ」ということになりました。ネビキミヤコグサは茎が中空であることから区別できます。また花の色が少し緑がかっているそうです。ミヤコグサ、セイヨウミヤコグサは茎が中実。

〔行事予定〕2007/6/17（日）　多摩美の森

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、京王相模原線・京王よみうりランド駅改札口付近 京王よみうりランド駅の改札口は一個所だけです
交　通	京王線調布駅から京王相模原線橋本行快速または各停で３駅目 多摩モノレールは、多摩センター駅で京王線に乗換えて４駅目 小田急線の場合は、永山駅または多摩センター駅で京王線に乗換え 京王よみうりランド駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	小田急線・読売ランド前駅　ｐｍ４時頃解散予定
見所 その他	ヤマアジサイが盛りです。他にアカショウマ、チダケサシ、ホタルブクロなど。運がよければギンリョウソウやオニノヤガラにも出会えるかもしれません
地　図	
コース	京王よみうりランド駅→穴沢天神→小沢城址→菅仙石→寿福寺→フルーツパーク→巨人軍宿舎前→多摩美の森→雑木林の道→日本女子大→小田急読売ランド前駅（解散） コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円

〔行事予定〕2007/7/29（日）　駒沢学園周辺

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、京王相模原線稲城駅 改札口付近　※会旗目標 稲城駅の改札口は一個所だけです
交　通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で４駅目 多摩モノレールの場合、多摩センター駅で京王線に乗換えて３駅目 小田急線の場合、永山駅、または多摩センター駅で京王線に乗換え 稲城駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	稲城市坂浜地区、清水谷戸（下の地図を参照ください） 京王相模原線稲城駅　ｐｍ４時頃解散予定
見所 その他	学園広場は小規模ながら手入れのよい雑木林で、林床にはお目当て のヤマユリなどいまでは貴重になってしまった植物群が見られます
地　図	
コース	稲城駅→百村→駒沢学園・学園広場→清水谷戸→高勝寺→稲城中央 公園→百村→稲城駅（解散） 行程５～６ｋｍ、多少のアップダウンがあります（標高差１００ｍ 以下） コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円